

## 令和7年度第3回四日市市立図書館協議会 議事録

1. 日時 令和8年2月25日(水) 午前10時～11時40分
2. 場所 四日市市立図書館 2階 視聴覚ホール
3. 出席者 岡田委員、加納委員、北村委員、竹内委員、柘植委員、中井委員、福永委員  
図書館:谷本館長、川崎副館長兼奉仕係長、浅野管理係長
4. 欠席者 竹下委員、六代委員
5. 傍聴者 なし
6. 資料 【資料1】自動車文庫巡回コースの見直しについて  
【資料2】自動車文庫「くじら号」について  
【資料3】知と交流の拠点施設整基本設計業務に係る公募型プロポーザル関係資料

### (1)自動車文庫巡回コースの見直しについて 【資料1】【資料2】

事務局より、資料1をもとに巡回コースの見直しについて説明、現利用者には2月巡回時に新停車場所を案内済であること、3月には地区広報や図書館HPで周知予定であることを説明した。併せて、9月に寄贈された小型自動車文庫「くじら号」の派遣状況について、資料2のとおり説明した。

委員:ここ数年、自動車文庫の利用が減少している原因は何が考えられるか。

事務局:熱中症予防のため運休が増えたことも一因だが、利用者の年齢層が変わると利用状況が変わる印象がある。親子で利用していたが子の入園を機に利用しなくなったり、高齢の方が来れなくなったりする。また、学童保育所などの団体利用が、指導員の方が忙しくなるなど利用が途絶えるのも影響が大きい。母数が大きくないため、常連の方が何組か来なくなるだけでも影響は小さくないと感じる。なお、学童保育所に対しては、こちらで選んだセット本を貸出したり、「くじら号」を派遣して子どもたち自身に借りる本を選んでもらうなど、別の方法でも打診している。

委員:移動図書館はそもそもアクセスしにくい人たちにサービスすることが基本だが、乳幼児連れで利用する年代もやはり減っているのか。

事務局:子が大きくなり保護者の行動パターンが変わり、借りなくなる、というのは以前からあることだが、昔より、低年齢化しているように感じる。また、地域に、毎年、同じような入園前の乳幼児がいるとも限らず、昨年まで利用が多かったのが今年は・・・、ということはめずらしくない。だからといって、今年はこの地域に赤ちゃんが多いからここに変えよう、とするのも難しく、駐車場の見直しはタイミングが難しいところがある。

委員：早くから預けることが増えているようで、子育て支援施設で読み聞かせをしていると、参加者の低年齢化を実感する。今回の駐車場所の見直しにあたって、今までの利用者へのフォローをしっかりとお願いしたい。また、駐車場所はあまり頻繁に変えると定着しないという懸念もある。

委員：自動車文庫は、3 台体制になったと考えてよいのか。

事務局：市内の定期巡回は、従来どおり「かもめ号」「みなと号」の 2 台体制で行っており、小型の「くじら号」は、申込に応じて派遣している。

委員：この 24 地区というのは、小学校区か、中学校区か、それともまた別のものか。

事務局：小学校は 39 校、中学校は 22 校であり、どちらでもない。

委員：自動車文庫の考え方は交通弱者へのサービスである。とは言え、ある程度の人口がいるエリアで、と考え中学校区で見た場合、現在は、各中学校区に対して 1ヶ所以上は巡回しているということになり妥当であろう。「くじら号」を、ショッピングセンターなど、いろいろなところに派遣してもよいと思った。また来年度も考えてもらいたい。

事務局：「みなと号」の車両更新に関して補足説明する。中型車にサイズダウンしたものが今年度中に納車予定であったが、納期が遅れ、5 月ごろ納車予定である。そのため、4 月から新巡回コースを巡回するが、納車されるまでは従来の大型車で巡回する。大型車でも巡回できなくはないが、安全面からも、中型車が納車され次第、変更予定である。

また、駐車場所を 79ヶ所に減らしたが、新しく追加したショッピングセンターでは、買い物ついでに見かけた方が利用できるよう、停車時間を長くして、ゆったり利用できるように考えている。

委員：広報・周知について、巡回場所や日時の広報は、地区広報を使うとのことだが、市の広報はどうか。また、中学校は、令和 8 年度の夏以降、部活動が学校の手を離れるため、放課後の過ごし方が変わってくる。学校に予定表を配布したら、それを見て行く子が出てくるかもしれない。小さい子が保護者に連れて行ってもらうだけではなく、子どもらが自分で行く、そういう機会も増えるのでは。また、駐車場所となっている施設などに恒常的に掲示をしておくことで、通りすがりの人もわかるようにしてはどうか。時間帯は、小・中学生が行けるような放課後もあるのか。

事務局：市の広報では、巡回コースを変更することは掲載するが、紙面の都合もあり、巡回日時などの詳細は掲載することが難しいため、各地区広報で周知を図っている。そのほか、図書館ホームページや、あさけプラザ等を含めた市内図書館施設で巡回日程表を配布している。駐車場所となっている施設での広報は、施設側の好意で掲示されているところもあるが、今後、参考にしたい。

次に、時間帯だが、図書館に戻ってからの業務もあるため、15 時すぎには巡回先を出発しており、小中学生が利用できる時間帯には定期巡回はできていない。資料 2 で説明したように、小学校に自動車文庫を派遣しているが、その際に、学校には学校図書館があり

生徒や先生が利用できるように、四日市にも図書館があって誰でも使えること、四日市は広いので、図書館から遠い地域には自動車文庫を走らせていることを伝えている。

委員：市内に、コミュニティバスのようなものはあるのか。また、新図書館が整備された場合に、そういった運行システムが構築される話はあるのか。

事務局：特定の地域で走っているコミュニティバスはあるが、市全域となると通常の民間バスになる。また、近鉄四日市-JR四日市を結ぶ通りで、自動運転バスの実証実験をいくつか試験的に行なっているが、現時点では未定である。四日市市は公共交通に弱い面があり、課題の一つと考えている。

委員：交通弱者へのサービスとして自動車文庫が出向くのだが、同時に、図書館へ来てもらうことを考え、今回、新図書館になることを契機にそういった機運があがるとよい。

委員：「くじら号」の活用について。たとえば休日にイベント会場などに行く、といった運営はやはり難しいのか。

事務局：現在の職員体制は、土曜・日曜は半数ずつが出勤しており、月曜日と土日のどちらかという形で週休2日体制をとっている。土曜・日曜の司書は、ほとんどの時間をカウンターに出ており、自動車文庫の巡回まで手が回らないのが現状である。自動車文庫のPRにもつながるため、一時的な派遣であれば変則的に勤務体制を整えて対応することも可能だが、継続的には難しい状況である。利用できる時間に、利用できる場所に行くのが自動車文庫の本来だとは考えるが。

なお、91ヶ所の駐車場所は他と比べて多く、他の自治体では、月に2回同じ駐車場所を巡回したり、ゆったりと1時間ずつ停車したりというところもある。今回の見直しで、79ヶ所に整理したことにより、1ヶ所当たりの時間も、少しゆったりとれるようになった。まだまだ、情報が届いていない人もいると思うので、利用を掘り起こしていきたい。

委員：駐車場所は減少するが、多くの人に利用されるよう見直しをしてほしい。

## (2)「知と交流の拠点施設」(新図書館)の進捗について【資料3】

事務局より、資料3をもとに、現在実施している、知と交流の拠点施設整備基本設計業務に係る公募型プロポーザルについて説明した。一次審査は終えており、最大5者までを選定済だが、社名・社数は非公表のため控えること、整備方針は平成30年策定の中心市街地活性化拠点施設整備基本計画及びスターアイランド跡地で検討時に図書館について取りまとめたものを踏襲するものであると説明した。

委員：最近、他県の図書館で傷害事件があった。新図書館にも図書館利用者だけでなくいろんな人が集まると思うが、警備員の配置予定はあるのか。

事務局：具体的に決まってはいるが、当然配置されるものと考えている。

委員：資料を見ると、建物の形が駐車場の関係でくの字になっている。今後、業者からの提案もあると思うが、四角形の方が使いやすいと思う。また、ホールが立派なものになりそうだが、立派なものになるほど他施設と機能を融合することなく閉鎖的になりがちなので、図書館とどうつながりを持たせるか。また、施設全体は誰が管理することになるのか。例えば、愛知県安城市のアンフォーレの場合は、アンフォーレ課があり、施設全体の責任者は図書館長となっているが、四日市も図書館がリーダーシップ取りながら施設全体をまとめていくのかどうか。ホールの運営が指定管理となり、会議室も有料になったりすると、図書館管理部分との兼ね合いなど、運用時に調整が必要になる。基本設計が決まった後、図書館がしっかりと協議の場に出ているかどうかポイントだと思う。自分たちはこのエリアだけ管理を、となると一緒にいるメリットがなくなってしまうので、維持管理で共有できるような形を取れるとよいと思う。

利用者は、安心安全でいろんな活動ができるようなものがよいと思うし、管理者側は管理しやすいように考える。そういったサービスの動線がちゃんとしっかり取れているかどうか。そこが大事なので、ぜひ図書館利用者の意見と、管理する図書館側の意見を伝えることができるような枠組みで、事業を進めてほしい。

また、閲覧席数が、現図書館の席数299席以上となっているが、基本計画のときはもっと多かったように思う。スツールやベンチではなく、机がある席だけで299席、すべて含めると500席ぐらい必要なのでは。その辺り目を光らせて欲しい。本をたくさん置いて、席をたくさんというのは無理な注文ではあるが、それは声を大にして伝えてほしい。

事務局：確かに、平成30年策定の基本計画では、学習室を除く現状215席の3倍程度を目安とする、と書かれているが、現状では、少なくとも299席以上という書き方になっている。計画として実現できるように安全な数値を書いたというところはあるかもしれない。

委員：閲覧席をどれぐらい計画しているのかは、設計者たちの考えが出る。利用者のこと、管理運営のことをどれだけ考えているか。デザインもあるが、実際の利用され方、その運用のしやすさをどう考えているのかということ、チャンスがあれば、全社にぜひ聞いていただいたらよいと思う。

委員：平成30年の基本計画策定から関わっているが、だんだん縮小している感がある。せっかく建てるのなら、目標達成できないかも、と後ろ向きにならずに、よいものを建ててほしい。市民意見を2回ぐらい聞く、とあったが、時期はいつぐらいか。

事務局：基本設計の業者が決まってから、その委託の中で行うものである。決まれば、周知広報などはされると思うので、その情報を待っていただくことになる。

委員：200台の駐車場に対して、ホールの収容人数200人、図書館の席数が299以上、それ以外にもカフェとかがあるが、駐車場は有料になるのか。駐車場が無料になったら、図書館に用はないのに止める人がたくさん出てくるのでは。市営駐車場のように、無料券を出すとかなるかと思うが、中心街の駐車場だし、先ほども話にあったが、車の利用が多

いので、どのように運用するのかなど。1 回始まってしまうと、途中で変えるのは難しいと思うが、そのあたりは今、何か話があれば伺いたい。

事務局:そこまで具体的ではないが、市営駐車場のように有料とし、無料処理の運用については、いろいろな視点から検討が必要と考える。現状の想定としては、近くに市営中央駐車場があるので、例えば土日の利用が多いときには市役所が閉庁しているので、そちらを使ってもらおうなどを考えている。

委員:新図書館の目標蔵書冊数については 70 万冊で、開館 10 年後を目途に見直すところがあるが、今後、電子図書館に力を入れていこうという流れなのか、思いがあれば聞かせてほしい。いろいろな自治体で、図書館にカフェやいろいろな施設が一緒になって建てられているが、それらは分館であって、本館は別のところにちゃんとある、というのが多いように思う。本館としての機能や大きさ、資料の保存などの役割、そのあたりの考えをもう少し説明してほしい。

事務局:例えば新聞データベースのように電子で提供ができ、紙でなくても十分役割を果たせるのであれば、場所も取らず検索も容易にできる点からも、積極的に導入したいと思っている。一方で、新刊で出るのは圧倒的に紙が多く、電子で提供されないものも多い。また、電子ではスワイプしながら平面で読んでいくが、紙の本の場合は、本全体がこれだけあって、今自分がどれぐらいまで読んでいて、と空間的な認知と結合して読めるという面があり、機能的なところもあると考える。このように、紙の本は今後も必要であり、本館として紙資料の収集保存という重要な役割もある。また、電子図書館は、実際に本館まで足を運ぶことができない方でも読書を楽しむことができるし、拡大機能や読み上げ機能といった読書バリアフリーの機能もあり、引き続き力を入れていきたいと考えている。何しろ、本市では分館がなく、本館 1ヶ所しかない。コンパクトシティとか、他の自治体でも図書館を統合するという動きがある中で、逆に分館を建てるという話はなかなかできないと考えている。分館的な役割として、自動車文庫の充実、電子図書館でカバーできればと考えている。本を除籍するのは苦しい作業ではあるが、ある程度、新陳代謝が必要な部分もある中で、必要な図書を保存しながら 70 万冊を目指していく、ということで現時点では考えていきたい。

委員:閲覧席も蔵書数も、以前の計画より減っているが、図書館部分の面積は変わっていない。滞在型図書館には、椅子はとても重要なので、こだわって増やしていただきたい。

事務局:299 席は、最低限の数で出している。座席はできるだけ増やして欲しいと伝えていく。

委員:開館時間や休みについてはまだこれからと思うが、複合施設なので調整が必要である。例えば、亀山市は図書館が 20 時に閉まるが、1階のラウンジのような場所は 21時まで開けてある。区画はシャッターで仕切られており、図書館には出入りできないようになっている。そういった管理やセキュリティの仕方を注意されたい。複合施設で機能融合型というか、混ぜようとする、休館日のときなどに管理が難しくなる。野々市市の例をあげると、1

階の図書館を囲むように学習センターのキッチンや工作室などが配置されているのだが、関連書籍を配置するなど、非常に機能がミックスされている。それは素晴らしいのだが、蔵書点検で図書館が休館の際には、本を手にとらないように書架にテープが貼ってある状態となった。今回も、そういう提案をしていくところがあるかもしれないが、ぜひ運用面をどう考えているのか、そういう視点で聞いてほしい。

委員：各委員から意見があったように、業者任せにするのではなく、こういった会議や市民の意見を聞く機会を継続的に持っていただきたいと思う。

事務局：いろんなご意見を頂戴した。基本設計のプロポーザル業者が決定するのが4月下旬～5月中旬の予定である。今年度の会議としては本日が最後になると思うが、業者が決まった頃に、意見等を頂戴できる機会を持てればと思っている。ただし、委員任期が5月末までのため、新体制になってからになるかどうか、切り替わりが微妙な時期になりそうである。5月末までに必要なことがあればその時点でご協力をお願いしたい。

また、今回のプロポーザルは基本設計業務にかかるものである。この時点でいろんな意見を出し、必要な機能は全部盛り込んで欲しいと伝えていく。今後業者と詰めていく中で、図書館として、ここは主張すべきということがあればまたご指摘をいただければと思う。